

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

No.33(通巻 37号)

平成20年 10月20日発行

【目次】

- こんなのきました -参考調査課によせられたレファレンス-……………1
【37】遠藤周作の「白い風船」が読みたい。
- こんなのあります -いちおしレファレンス・ブッカー……………2
【23】初心者のための植物図鑑
- 市町村のみなさんからの発信……………3
【22】「しあわせな図書館員」 滝上町図書館 辻めぐみ さん
- Librarian's Box (ししょぼこ) 【20】……………4
「研究者のためのアメリカ国立公文書館徹底ガイド」仲本和彦著
- レファレンスサービスに関する雑誌記事紹介……………5
(2008年6月~2008年9月分)
- News……………7
 - 1 2010年を「国民読書年」に決定!(6/6)
 - 2 「子どもの読書活動推進計画」策定状況を公表(6/12)
 - 3 北日本図書館大会・北海道図書館大会開催(6/12-13)
 - 4 「本とあそぼう 全国訪問おはなし隊」2年ぶりに北海道へ(6月・7月)
 - 5 「教育振興基本計画」閣議決定(7/1)
 - 6 図書館における指定管理者制度の全国導入状況の調査結果を公表(7/8)
 - 7 国立国会図書館・近代デジタルライブラリー 10万タイトル突破(8/22)
 - 8 札幌市立図書館インターネット予約サービスを開始(8/28)
 - 9 野間読書推進賞に「十勝子どもの本連絡会」(9/12)
 - 10 平成21年度 子どもゆめ基金助成金募集開始(9/12)
 - 11 夕張へ読売新聞社が年1200冊寄贈(9/29)
 - 12 札幌市図書館再活用ネットワークセンター開設(9/27)
 - 13 全道図書館研究集会開催(9/25-26)
- 編集後記……………9



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

こんなのきました —参考調査課によせられたレファレンス— 【37】

遠藤周作の「白い風船」が読みたい。

2年前の話ですが、夏休みも終わりに近づいたある日、小学生から遠藤周作の「白い風船」があるかという問い合わせがありました。お母さんから読書感想文の題材として薦められたそうです。

当館の蔵書検索では、所蔵は確認できませんでした。Nacsis Webcat (※1)、『作品名から引ける日本文学作家・小説家個人全集案内』(日外アソシエーツ 1992)〈請求記号：910.31/SA〉から、『哀歌』(講談社 1976)に収録されていることが判りました。当館の『哀歌』(講談社発行)は1965年刊行など発行年の異なるものは所蔵していますが、いずれもこの作品は含まれていません。通常であればすぐにでも1976年発行の資料の所蔵館調査をして借受けの申込みをしたいところですが、ここで、夏休みの宿題という時間的制約があるため、自館で所蔵している資料で提供できるものがあるはず、と思い調査をさらに進めてみることにしました。

まず、当該作品の初出について、『日本文学大年表 新版』(おうふう 2002)、『日本現代文学大事典 作品篇』(明治書院 1994)、『文芸雑誌小説初出総覧 作品名篇』(日外アソシエーツ 2005)などの事典類の作品名索引を調べましたが、触れられていませんでした。

次に、検索エンジンGoogleでこの作品が教科書に掲載されていることが確認できたので、「東書文庫」(※2)の蔵書検索をし、昭和46年～平成元年の教育出版の教科書に掲載されていることが判りました。(その小学生のお母さんは、教科書でお読みになったのでしょうか。)そこで、出版社に直接初出を尋ねたところ、朝日新聞 昭和44年1月1日付 朝刊 p.47 に掲載されたものという回答があり、当館で所蔵している縮刷版により提供することができました。自館で所蔵している資料で全て解決できることがわかると大変うれしいものです。

作品名の索引などは付いていませんが、初出については『遠藤周作文学全集15 日記 年譜・著作目録』(新潮社 2000)〈請求記号：918.6/E/15〉などで確認できます。この目録の元となっている資料は、『解説遠藤周作のすべて』広石康二〔著〕(講談社 1976)の「遠藤周作初出誌・著作目録」と『異邦人の立場から』遠藤周作〔著〕(講談社 1990)の「著作目録—遠藤周作」の2冊であり、これらを元に編集されているものについては、同様に初出の記述があります。

後日談ですが、1976年発行の『哀歌』に所収されていることは初めの段階で判っていたので、まずはこの資料を当館では入手することにしました。それから数カ月後、ある県立図書館からその資料に当該作品が含まれているかについての同様の質問があり、上記調査結果をお知らせしたことがありました。他にも、国立国会図書館HP(※3)レファレンス協同データベースで事例が掲載されていること(この時は教科書を提供)やブログなどでもこの作品を探している記事があることから、この作品探しは今後もあるのでは、と思われれます。

※1 全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベース(国立情報学研究所) <http://webcat.nii.ac.jp/>

※2 教科書の図書館「東書文庫」 <http://www.tosho-bunko.jp/>

※3 国立国会図書館 <http://www.ndl.go.jp/>

こんなのあります —いちおしレファレンス・ブッカー— 【23】

初心者のための植物図鑑

先日、カウンターで「野の花を調べるので植物図鑑を見せてください」と、利用者から声をかけられました。まずは何冊かを提供し、更に追加の資料を探していると、別の利用者から「あの、植物図鑑はどこに……」。時間差でまったく同じ資料を2人の利用者にご紹介することになりました。

毎年、決まった時期になると植物やきのこの名前を調べる方に資料をご案内する機会があります。最近ではカメラ付き携帯電話を直接お持ちになる方も多くなりました。以前、植木の根元に生えていたという白い小さなきのこの写真を、やはり携帯電話に収めて調べに来館した方がおられました。写真だけでは特徴を掴むことが難しく、図鑑には同じ形状のきのこがいくつも載っていて判断がつかなかった様です。

植物の名前を特定するのはとても難しいことです。調べ方がわからずに何冊もの図鑑を1ページ目から丹念に時間をかけてご覧になっている利用者を見かけますが、図鑑の特徴を理解した上でなるべくご案内してあげたいものです。はじめての利用者にもおすすめることができる“植物を調べる”ための図鑑をご紹介します。

1 『野草・雑草観察図鑑 身近で見る430種のプロフィール』(岩瀬徹著 鈴木庸夫写真 成美堂出版 1997) 請求記号:470.38/Y

草の形と生息する環境別に構成されています。「ロゼット」という地面に広がって立ち上がっていない葉をもつタイプ(タンポポなど)かどうかで分け、直立型、つる型、ほふく型など類型化し、生育型(草の生育する形をタイプに分けたもの)からどの植物かを絞り込んでゆくページがあります。

2 『原色野外植物検索図鑑』全8巻(石戸忠著 全教図 1979) 470.38/I/1~8

各巻の構成は、1巻 植物基本用語図解、2巻 草原、3巻 道・庭、4巻 田・畑、5巻 水辺・海浜、6巻 林、7巻 山、8巻 高山となっています。

予備知識がない初心者用としてよくできた検索図鑑です。植物の生える場所によって巻を構成し、各巻の始めに使用法、検索のための見本例のページを設け、一つの植物についてカラー写真と絵での説明ページ、両方が収められています。

3 『原色野草検索図鑑』全3冊(池田健蔵編 北隆館 1996-97) 470.38/G

この本は、まえがきに「検索図鑑の命は、いかに目の前にある植物からその実名に読者を導けるかという点にあります。」とあるとおり、簡単明瞭、かつ正確に検索できるよう、植物の形状をチャートでたどって科名を特定する検索方法が用いられています。「離弁花編」「合弁花編」「単子葉植物編」の3分冊。

4 『色でわかるみちかな草花 大きな字、わかりやすい説明、振り仮名つき』(わか自然の会 2006) J470.38/I(北方資料室所蔵資料)

7色の花の色別で構成されていますから、調べたい植物の花の色を見れば、すぐに名前を知ることができます。対象年齢6歳から120歳までのかんたん!お手軽図鑑です。

使う人への配慮と自然への愛情を持って作られた図鑑に、エコロジーの原点を感じますね。

市町村のみなさんからの発信 【22】

— 「しあわせな図書館員」 —

滝上町図書館 辻 めぐみさん

午後、年輩の女性がカウンターへやって来た。「“孔子”について書かれた本はありませんか。」とのこと。難しいものではなく簡単に読めるものがない、ということなので、孔子の評伝と『論語』について書かれた本を数冊と、それから『サライ 2007年2月1日号』（小学館）の孔子特集と『孔子 週刊100人』（ディアゴスティーニ）を一緒に渡すことにした。

聞くと女性は井上靖著の『孔子』（新潮社）を読み、孔子の愛弟子・顔回（顔淵）に興味を覚え、彼のことを知りたいと思い立ったようです。

前述の『サライ』と『週刊100人』には顔回の記述があったが、彼のことを書いた書物はないかとのことだったので、インターネットで少し検索してみたところ酒見兼一著の『陋巷に在り』（新潮社）が、顔回を主人公として書かれている本であることがわかったので、ちょうど所蔵していた文庫版を紹介してみることにしました。シリーズ全13巻ということで、少し戸惑った様子でしたが、笑顔で「挑戦してみます。」と3冊の本を携えて帰られました。……こう、とんとんとんと利用者が求める資料を提供していったとき、本当に幸せな気持ちになる。「図書館の仕事ってなんてすてき！」ってな感じ。（顔回の著作は提供できていない。）

土曜日、小学生の美人姉妹とおしゃべりを楽しむ。

小学2年生の妹がおもむろに語り出した。「夢かもしれないけど…動物の体が上と下でばらばらになって、くつつくの。そんな本見たような気がする。そこで。」とじゅうたん敷きの児童書コーナーを指差す。「すごく怖い…。悪い夢かも。」小学5年生の姉は「やだ、なに言ってるの、そんなの夢だよ！」と取り合っていない。ところがピンときた。「この本でしょ！」と取り出したのはエンリケ・マルチネス作の『どうぶつたちのおまつり』（福武書店）。

覚えがあるのだ。彼女が保育所に通い始めた頃、お母さんと読みきかせ会に参加してくれた時のこと。読みきかせが終わってから、書架の前で借りていく本を吟味していた彼女の背後にそっと忍び寄り、「この本は？」なんて言って一緒に読み始めた。キューバの絵本だが、ファンタスティックな雰囲気はどこか暗い印象。なぜ、この本を手にとったか全くわからない。人間に虐待を受けたどうぶつたちが1年に一度だけ心を癒すためにおまつりを催す…どうぶつたちの体はばらばらになり、思い思いの体になって心を解放する…とかなんとかそのような内容の絵本だ。ああ！ ごめんなさい。読みきかせで悪夢を植えつけてしまった！ これには猛反省した。でも、3年も4年も前に読んだ本を覚えてくれていたなんて、やっぱり少し幸せだったんだけどね。

滝上町は人口3,300人弱の小さな町。レファレンスと言っても「この本ありますか？」「こんな本ありますか？」という所蔵調査がほとんどだ。「えーっと…あの本、ほらほら。」という小さな情報のかけらを集めて60,000冊の中から1冊の本に辿り着く。そして、「ありがとう。」なんて言われたときには、ああ、本当に幸せ。「ペンギンの本？…ペンギンのきょうだいの絵本でしょ、ここだよ。」「図書館だよりに紹介された…あ、こちらです。」「え?! 自転車で北上?…それはこの本のことですかね?…え? 違う…うーん。」

Librarian's Box (ししょぼく) 【20】

「研究者のためのアメリカ国立公文書館徹底ガイド」

仲本和彦著 凱風社 2008.6

今回は、日米外交史ばかりでなく、日本の戦中、戦後史を知る上で重要な役割を果たしているアメリカ国立公文書館を知るための好著を紹介します。

この本は、沖縄県公文書館のアーキビストである著者がアメリカ国立公文書館（NARA）で沖縄関係資料の調査・収集業務に携わった経験をもとに書いた調査のためのガイドブックです。

一昔前まで、新聞のトップ記事に「戦後第一級の資料発見」とか「極秘資料を公開」といったキャッチが周期的に踊ったものです。これらの記事はほとんどがアメリカ発のものでした。

古くは「米国戦略爆撃調査団報告」として知られる資料のなかで、戦時日本の軍事計画や戦時経済をはじめ、国民の健康状態や戦意の推移など、日本の国力があらゆる側面から研究・分析されていたことが明らかにされたこと、また、これらの研究の素材として、終戦直後の国内で多くの文書、記録が接収されるとともに、文官、武官に対する尋問が行われ、その調書の一部が公開され注目されました。この尋問調書は後に終戦三十年を期に全文が公開されました。

近年では所謂「西山事件」に関連し、沖縄「密約」の存在を示す資料が発見されたり、大江健三郎氏の『沖縄ノート』訴訟に関連して、沖縄の集団自決に軍の命令があったとする、民間人の証言記録が研究者によって発見されたという新聞報道があったことなどが記憶に新しいところです。

これらの資料が保存されていた機関は、言うまでもなくアメリカ国立公文書館でした。

正式名称は「国立公文書館・記録管理庁」といい、米国の歴史資料を保存・閲覧しているだけではなく、連邦各省庁の記録管理を指導・監督する機能を持ち、傘下の施設は全米に33か所、約2,500人のスタッフを擁する一大情報センターです。施設群の中でもメリーランド州にあるアーカイブズⅡは訪れる日本人研究者が年々増加しているということですが、ここに日本人研究者が集まるには理由があります。それは、戦後の日本外交文書は、肝心な部分が未公開になっており、逆にアメリカ側の記録には交渉過程がしっかり記録され、公開されている。つまり、研究に活用できる一次資料はこれしかないという状況にあります。同様に、第二次世界大戦下の我が国の記録は、戦災で焼失したり、旧日本軍の記録は終戦後、連合軍の進駐前に、大量に廃棄、焼却され失われました。これを補うのがアメリカ側の資料という訳です。

とはいえ、実際に目的の資料にたどり着くのは至難のわざ、と想像がつかます。本書では、宿はどこに取るのが良いのか、公文書館への交通手段はどうするかに始まり、公文書館の閲覧室に入る際のセキュリティーチェック、資料の請求法、資料の扱い方のルールなど、誰もが直面する問題について丁寧に説明されています。まさに実体験に裏打ちされた役立つ情報といえます。

また、本書には沖縄県公文書館だより「ARCHIVES」に連載された「アメリカ通信」をもとにしたコラムのページがあり、日米の文書管理、情報公開制度の違いや沖縄県が沖縄戦やアメリカ統治時代の記憶を復元するために費やしている膨大なエネルギーを垣間見ることもでき読み応えがあります。最後に、沖縄県公文書館のホームページも、是非、参照いただきたいと思います。

<参考>

- ・ ウェブ版「琉球新報」掲載の2008年7月20日付書評、その他一般記事
- ・ 沖縄県公文書館のホームページ <http://www.archives.pref.okinawa.jp/>

レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介

(2008年6月～2008年9月分)

※ 論題(記事名)、著者、雑誌名、出版者/編者 巻号、発行年月、掲載ページ の順に記載

(参考: 国立国会図書館NDL OPAC 雑誌記事索引)

- 1 世界基準の図書館情報サービス—アメリカの大学図書館からの視点 第2回 図書館=大学の知的交差点～大学教育改革と図書館の変化 / ヨコタ=カーター 啓子 『情報管理』 科学技術振興機構研究基盤情報部 51(7) [2008.10] p.528～531
- 2 公共図書館ビジネス支援サービスがもたらすもの—地域の課題に応える開かれた場になるためには何をすべきか / 田村俊作 『出版ニュース』 出版ニュース社 (通号 2152) [2008.9.中旬] p.6～9
- 3 クローズアップNDL(第4回) 国立国会図書館『雑誌記事索引』 / 沖野文子 『図書館雑誌』 日本図書館協会 102(9) (通号 1018) [2008.9] p.656
- 4 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ21) 調べたことをまとめる / 大串夏身 『あうる』 図書館の学校編 / 図書館の学校 (84) [2008.8・9] p.28～30
- 5 高田高史のレファレンスひろば(その6) / 高田高史 『あうる』 図書館の学校編 / 図書館の学校 (84) [2008.8・9] p.38～41
- 6 れふあれんす三題噺(その151) 東京都立日比谷高等学校図書館の巻 5分休みもレファレンス! --時間もツールも限られる中でも / 中島彰子 『図書館雑誌』 日本図書館協会 102(8) (通号 1017) [2008.8] p.530～531
- 7 特集「レファレンス再考」 『情報の科学と技術』 情報科学技術協会〔編〕 / 情報科学技術協会 58(7) [2008.7]

(内容)

総論: レファレンス再考 / 田村俊作 p.322～328

インターネット時代の「レファレンスライブラリアン」とは誰か? / 安藤誕, 井上真琴 p.329～334

図書館のビジネス支援サービスにおける「個人」と「組織」のスキルアップ / 余野桃子 p.335～340

ラーニング・コモンズの可能性: 魅力ある学習空間へのお茶の水女子大学のチャレンジ / 茂出木理子 p.341～346

自動レファレンスサービスにむけて / 増田英孝, 清田陽司, 中川裕志 p.347～352

- 8 れふあれんす三題噺(その150) 小山市立中央図書館の巻 農業なんでもレファレンス--図書館から農業情報発信 / 栗原要子 『図書館雑誌』 日本図書館協会 102(7) (通号 1016) [2008.7] p.464～465
- 9 医療・法律・ビジネス情報提供の共通点とは--「医療情報・法情報およびビジネス情報に関わる参考業務のための指針」の解説 / 吉田倫子 『みんなの図書館』 教育史料出版会 / 図書館問題研究会 編 (通号 375) [2008.7] p.63～71

- 10 クローズアップNDL(第2回)ご存知ですか?「テーマ別調べ案内」 / 伊藤白 『図書館雑誌』 日本図書館協会 102(7)(通号 1016) [2008.7] p.460
- 11 データベース活用は強力な研究支援ツール! 探すから,作って使うへ 総合研究大学院大学 総合図書館長 及川昭文氏に教えて頂いた / 森田歌子 『情報管理』 科学技術振興機構研究基盤情報部 51(4) [2008.7] p.282-283
- 12 ワンストップサービス検索エンジンとしての司書スキルと物流について ([図書館問題研究会]第34回研究集会編) / 星野盾 『図書館評論』 図書館問題研究会 (通号 49) [2008.7] p.14~23
- 13 図書館員はどう調べる? レファレンス協同データベースから,調べるプロセスをたどる(特集 どう調べる?) 『あうる』 図書館の学校編 / 図書館の学校 (83) [2008.6・7] p.16~21
- 14 高田高史のレファレンスひろば(その5) / 高田高史 『あうる』 図書館の学校編 / 図書館の学校 (83) [2008.6・7] p.34~37
- 15 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ20) 教育の情報化について調べる / 大串夏身 『あうる』 図書館の学校編 / 図書館の学校 (83) [2008.6・7] p.38~40
- 16 特集 図書館における法律情報提供サービス 『Lisn』 キハラマーケティング部 / キハラ株式会社マーケティング部 編 (136) [2008.6]
- (内容)
 神奈川県立図書館の「法律情報コーナー」における法律情報サービスについて / 矢島薫 p.10~13
 大学図書館における法情報提供サービス / いしかわまりこ p.14~18
 図書館,司法情報,弁護士--それぞれの新しいあり方 / 早野貴文 p.19~23
- 17 兵庫発=連続講座「レファレンス いろはのい」開催 / 阪本和子 『みんなの図書館』教育史料出版会 / 図書館問題研究会 編 (通号 374) [2008.6] p.79~81
- 18 世界基準の図書館情報サービス--アメリカの大学図書館からの視点 第1回 国際学研究としての日本学研究資料 / Yokota-Carter Keiko 『情報管理』 科学技術振興機構研究基盤情報部 51(3) [2008.6] p.222~225
- 19 れふぁれんす三題噺(その149)(財)渋沢栄一記念財団 実業史研究情報センターの巻 「渋沢栄一」や「実業史」関連情報を資源化し,レファレンスツールとしてウェブで発信 / 門倉百合子 『図書館雑誌』 日本図書館協会 102(6)(通号 1015) [2008.6] p.394~395
- 20 Current Practice in Health Sciences Librarianship(第5回) V.3.Information Access and Delivery in Health Sciences Libraries 情報へのアクセスと提供--急速な変化と図書館の役割 / 河合富士美 『医学図書館』 日本医学図書館協会 55(2) [2008.6] p.127~129

NEWS

- 1 2010年は「国民読書年」に決定！（6/6）

「文字・活字文化振興法」制定から5年を経過する2010年を「国民読書年」とする決議が衆参両院本会議で採択され、政官民協力のもと、「国をあげてあらゆる努力を重ねる」ことなどが宣言されました。
- 2 「子どもの読書活動推進計画」策定状況を公表（6/12）

文部科学省は、都道府県及び市町村における「子ども読書活動推進計画」の策定状況に関する調査結果を発表しました。全国では567市町村、策定率31.3%。道内は31市町村、17.2%の低率にとどまっています。
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/06/08061215.htm
- 3 北日本図書館大会・北海道図書館大会開催（6/12-13）

『地域の力となる図書館をめざして』をテーマに2日間の日程で札幌市において開催され、基調講演では道教育大札幌校の庄井良信准教授が、IT分野で目覚ましい飛躍を遂げたフィンランドにおける人づくり・まちづくりと読書力の関係について講演し、分科会ではポスターセッション「図書館利用支援アイデア集」など大学、公共、専門の館種を越えたさまざまなテーマ討議が行われました。
- 4 「本とあそぼう 全国訪問おはなし隊」2年ぶりに北海道へ（6月・7月）

1999年に講談社が90周年記念事業として始めた「本とあそぼう 全国訪問おはなし隊」が6月から7月にかけて来道し、道南と道北、道東の各地を巡回し、地元ボランティアの協力も得ながら本の楽しさを広める活動を行いました。スタッフの訪問日記は講談社のホームページで公開されています。
(<http://www.kodansha.co.jp/kids/ohanashi/diary/leader02/>)
- 5 「教育振興基本計画」閣議決定（7/1）

新しい「教育基本法」で策定が義務付けられた国の行動計画「教育振興基本計画」が閣議決定されました。この計画により、今後10年を通じた目指すべき教育の基本姿勢と今後5年間で取り組むべき具体的な施策が示されるとともに、今後は、都道府県、市町村においてこれらの施策を踏まえた行動計画の策定が速やかに進められるものと見られています。
図書館界としては、「社会全体で教育の向上に取り組む」部分や子どもの読書に親しむ機会の提供等、「地域の知の拠点」として期待される図書館の役割や機能の充実を、各市町村で策定される行動計画に明確に盛り込む働きかけを早急に行うことが必要となります。
- 6 図書館における指定管理者制度の全国導入状況の調査結果を公表（7/8）

日本図書館協会において4月に各都道府県図書館に対して行われた指定管理者制度の導入に関する検討結果についてのアンケートの集計結果が公表されています。（図書館政策企画委員会）
<http://www.jla.or.jp/sitei2008.pdf>
- 7 国立国会図書館・近代デジタルライブラリー 10万タイトル突破（8/22）

明治時代と大正時代に刊行された図書的全頁をインターネットで閲覧できる国立国会図書館の「近代デジタルライブラリー」が、8月追加分で約101,400タイトル約148,200冊となり、10万タイトルの大台を超えることになりました。

平成 14 年 10 月開始以来、4 年弱での快挙となります。

http://www.ndl.go.jp/jp/information/pdf/pr_080822.pdf

また、7 月 1 日から同館「国際子ども図書館」の所蔵資料の郵送複写や図書館間貸出の申込みが NDL-OPAC から申し込めるサービスも開始されています。

http://www.ndl.go.jp/jp/library/service_lendout.html

8 札幌市立図書館インターネット予約サービスを開始（8/28）

札幌市はパソコンや携帯電話を利用して、二十四時間、インターネットから市立図書館の蔵書の予約ができる新しいサービスを開始しました。対象は、約 230 万冊。予約した資料は中央図書館、地区図書館、区民センター図書室など市内 40 施設で受け取ることができます。

9 野間読書推進賞に「十勝子どもの本連絡会」（9/12）

今年の「野間読書推進賞」に北海道から「十勝子どもの本連絡会」が受賞することに決まりました。贈呈式は 11 月 7 日（金）、日本出版クラブ会館（東京都新宿区）にて行われます。

今年度第 38 回の受賞団体は、（団体の部）十勝子どもの本連絡会、図書館朗読ボランティア 千の風（山梨県）、みすみ絵本サークル（熊本県）、（個人の部）道勝美（石川県）。

10 平成 21 年度 子どもゆめ基金助成金募集開始（9/12）

読書フォーラムのような読書イベントやボランティア研修会の開催に利用できる「子どもゆめ基金」の次年度分の募集が 12 日から始まりました。対象は読み聞かせのボランティア・グループ、団体など。締切り等の詳細は「子どもゆめ基金」ホームページをご覧ください。

なお、平成 20 年度に助成を受ける道内団体は次のとおり。（14 団体、総額 5,433,000 円。道内のみ） <http://yumekikin.niye.go.jp/>

11 夕張へ読売新聞社が年 1200 冊寄贈（9/29）

読売新聞東京本社では、財政破綻で市唯一の図書館が閉館した夕張市を支援しようと、2 か月に 1 回、新刊本を中心に 200 冊の図書を贈ることを決め、第 1 弾となる 442 冊の贈呈式を、同市の保健福祉センター（図書室）で行ないました。市ではコーナーの 1 室を寄贈分の部屋にして市民に利用してもらうとのことです。（2008 年 9 月 30 日 読売新聞）

12 札幌市図書館再活用ネットワークセンター開設（9/27）

札幌市では、家庭で利用されていない図書を学校図書室で活用してもらう活動に取り組む市内のボランティア・グループ「北海道ブックシェアリング」と連携して、市内信濃中学校の空き教室を利用したネットワークセンターを開設しました。（2008 年 10 月 2 日 北海道通信 日刊教育版）

13 全道図書館研究集会開催（9/25-26）

道庁赤れんが庁舎において、『シニア世代と図書館』をテーマに 2 日間にわたって開催され、講演では元北陸学院短期大学教授の高島涼子氏を迎え、高齢者ボランティアによる高齢者への援助などアメリカの実践報告がありました。さらに、旭川市におけるボランティアとの協業による図書の宅配サービスの事例や浦河町で行われている高齢者向けの「音読教室」の活動例が報告されました。2 日目は活発なグループ討議が行われました。

編集後記

- ◆ 10月上旬のある天気の良い日に、道立図書館の庭に「エゾリス」がいるのを見かけました。(裏表紙口絵をご覧ください)以前は割りと見かけることもありましたが、ここ数年はご無沙汰で、久しぶりの目撃でした。撮った写真をみると、特徴である耳毛がまだ生えていない夏毛のエゾリスでした。エゾリスは冬眠をしないということなので、今度は耳が長い冬毛の時にまた撮影したいものです。(T)
- ◇ 最近TVの健康情報が元で、バナナが品薄です。以前、納豆で騒動になったことがありながら、飛びついている世相を見るに付け、人は忘れる生き物だと思いました。だからこそ、文字による記録が生まれたのかも知れないと思いつつ、早くブームが過ぎるのを待つばかりです。ダイエットしてないけど、バナナが買えないのは困るのです(や)。
- ◆ 先日、日経流通新聞、POS情報、企業情報などを使ったヒット商品の検証についてのお話を聞く機会がありました。一層、迅速で幅広い情報提供の必要性を感じています。(N)
- ◇ 「類は友を呼ぶ・・・」。レファレンスにも当てはまるのでしょうか。似たようなレファレンスが立て続けに舞い込みます。最近のテーマでは、美術の図録、満州、教科書。隣の席で”コーリン”を調べていたと思ったら、その後は”コリン”。前者は文房具の製造会社名で後者は出版社名です。(た)
- ◆ 9月に神戸で行われた全国図書館大会に出席という“幸福”が舞い込んできた。1,600名以上の図書館員の熱気と裏腹に、場外の話題はいずれも同じ経費の削減と勤務環境の改悪ばかり。S市におけるBL小説の一斉処分というのもあったが、役所主導の処分とはいえ館員にきちんとした釈明の場が与えられていたのかが気がかりなところだ。幼少期に読んだ「幸福な王子」という、とてつもなく救いがたく悲惨なお話があります。今号にお寄せいただいた辻さんの原稿タイトルに、思わずよぎった予感が見事に裏切られてホッと胸をなでおろしました。〈へ〉
- ◇ 秋も深まり、そろそろ冬の備えをと気が急きます。燃料費高騰だ、世界恐慌だと先行き不安なことばかりですが、図書館は助け合って頑張らないと・・・。〈S〉

(PR)今年度も残り半年となりましたが、「レファレンス体験研修」の年度内の募集を引き続き行っています。12月以降はまだ余裕がありますので、ぜひこの機会に受講をご検討ください。初めて受講される方、以前に受講された方いずれでも結構です。より深く、また違った切り口でレファレンスの新しい世界を開くことができる「レファレンス体験研修」。まずはお電話でお問い合わせください。皆様のご応募、お待ちしております。



Do-Re(どうれ)の由縁

“どうりつとしょかんレファレンス”の略から名付けました。
しかしながら
“どれどれレファレンス”からの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信 No.33(通巻37号)

発行年月日 平成20年10月20日
編集 北海道立図書館参考調査課
発行 北海道立図書館
〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地
TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906
<http://www.library.pref.hokkaido.jp>
